

対 象 学 年	中学校 第 3 学年
学 習 指 導 要 領	第 2 学年及び第 3 学年の内容 B 書くこと (1) ア、イ、ウ、カ、 言語事項 (1) ウ、エ、
単 元 名	「私たちの町を紹介しよう ~パンフレットを作ろう~」(全 6 時間)
単 元 目 標	<p>パンフレットの読み手に伝えたい自分の思いや願いを明確にしなが ら、文章の形態に応じた適切な構成や文を工夫し、それらの交流の中で自 分の表現に役立てようとする事ができる。(国語への関心・意欲・態度)</p> <p>パンフレットの目的に応じて、自分の伝えたい場所の特色を表す言葉 を選び、伝えたい事実や事柄を明確にして、読み手に効果的に伝える短文 やキャッチコピーを書く事ができる。(書く能力)</p> <p>パンフレットという形態を知り、そのに応じて書き出しや中心部分の展 開など適切な構成を工夫して書く事ができる。(書く能力)</p> <p>書いた文章(パンフレット)について、構成・文章の形態の観点から互 いに交流し検討し合いながら、自分の表現に役立てることができる。 (書く能力)</p> <p>相手や目的に応じて文章の形態に違いがあることに気付き、パンフレ ットのキャッチコピーや紹介文を交流することを通して、語感を磨くこ とができる。(言語についての知識・理解・技能)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 個の学習状況に応じた多様な指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットで紹介する場所に込められた生徒個々の思いや願いを大 切にした表現活動が行えるよう、パンフレットの構成の仕方・キャッ チコピーの作り方の手順等を明示し、それぞれの活動で目指す姿を生 徒に示しながら指導・援助を行う。 一人一人のよさや進歩の状況の評価結果を学習活動に生かす指導の工夫 ・生徒個々が確実に読み手に効果的に伝える短文やキャッチコピーが作 れるよう、パンフレットの内容及び形式から評価の観点を明確にし、 小集団学習による相互評価によって、自分の表現のよさや課題を明確 にとらえることができるようにする。 <p>【言語活動】説明(パンフレットの製作)</p> <p>【言語意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> (相手) 南濃温泉(水晶の湯)を訪れる人に (目的) 南濃温泉周辺の素晴らしさを伝えるために (場面・状況) 南濃温泉のロビーで自由に手に取る事ができるようにして (方法) パンフレットの形式で (評価) 分かりやすく伝えることができたかどうか、パンフレットを見 た方へのアンケートをもとに
参 考 資 料	<p>資料 1 : 第 1 ~ 5 時の評価プリント・・・「毎時間の自己評価用紙」毎時 間ノートに貼って自分の学習ぶ りを振り返るために使用</p> <p>資料 2 : 第 3 ~ 4 時の学習プリント・・・「パンフレット下書き用紙」伝 えたい場所を紹介する短文と、 それをもとにキャッチコピーを 考えるために使用</p> <p>資料 3 : 第 5 ~ 6 時の学習プリント・・・「パンフレット清書用紙」画用 紙に両面印刷し、清書として使 用</p> <p>資料 4 : パンフレット生徒作品例</p>

2 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
内容のまとめりごとの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事実や事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫するとともに、書くことにより自らを生活を振り返って生活を豊かにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い範囲から課題を見付けている。 ・必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている。 ・課題に対する自分の立場、伝えたい事実や事柄を明確にしている。 ・文章の形態に応じて、書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。 ・文章の内容が相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。 ・互いの文章を読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方など様々な観点から相互に検討し、自分の表現に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意して書き、抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書いている。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの読み手に伝えたい自分の思いや願いを明確にしなが、文章の形態に応じた適切な構成や文を工夫し、それらの交流の中で自分の表現に役立てようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、コンピュータや情報通信ネットワーク等を利用し、自分の住む地域に関する必要な材料を集め、それを基に自分のものの見方や考え方を深めている。 ・課題に対する自分の立場をはっきりさせ、相手や目的に応じて、伝えたい事実や事柄を明確にした上でキャッチコピーを作っている。 ・パンフレットという形態を知り、それに応じて書き出しや中心部分の展開など適切な構成を工夫している。 ・表現する目的、相手を明確にした上で互いの文章を読み合い相互に検討し、自分の表現に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手を引きつけるためのキャッチコピー作りを通して、多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付いたり、文の成分の順序や照応、組立てなどを考えたりして書いている。
単位時間における具体の評価規準	<p>日常生活に必要な情報がパンフレットに効果的に書かれていることに気付き、相手・目的を意識しながら自分のパンフレット作りについて見通しをもっている。</p> <p>仲間同士表現したものを交流し、それぞれのよさを自分の表現に生かそうとしている。</p>	<p>様々なパンフレットから、目的や意図に応じた表現の仕方とキャッチコピーの意義に気付いている。</p> <p>図書館等の利用、聞き取り調査をしながら紹介する内容、その場所についての自分の思いや願いをまとめている。</p> <p>紹介する場所について、自分の伝えたい内容を端的に表す短文を書いている。</p> <p>伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し、パンフレットを手にとった人のことを意識しながらキャッチコピーを作っている。</p> <p>お互いのパンフレットを交流し</p>	<p>パンフレットの形態や特徴を知り、相手や目的に応じた構成を工夫しながらパンフレット作りを行っている。</p> <p>相手・目的を意識し、紹介する場所をより効果的に伝えるための言葉を選んでキャッチコピーを作っている。</p>

		たり、実際の場面で活用することを踏まえて、相手に伝わる表現になっているか検討している。	
--	--	---	--

3 指導と評価の計画（全6時間）

時	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	学校や地域等、身の回りのことで興味・関心をもっていることを取り上げながら、パンフレット作りの目的や内容を考えることができる。	<p>様々な内容のパンフレットが身の回りにあることに気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">身の回りの様々なパンフレットを読みながら、パンフレットの目的や特徴を考えよう。</div> <p>様々なパンフレットに触れながら、それぞれの目的を考える。目的に応じてどんな内容・構成で作られているかを考える。パンフレット作りの見通しを確認する。</p>	アー 日常生活に必要な情報がパンフレットに効果的に書かれていることに気付き、相手、目的を意識自分のパンフレット作りについて見通しをもてている。	観察・発言 パンフレットの中でのキャッチコピーの効果が理解できたかどうか観察や発言から評価する。	視覚に訴えるものから説明書のように文字情報で説明するようなものまで、様々なパンフレットを提示する。目的に応じた文章になっていることに着目した発言を認め価値付ける。目的を明示し、身近な地域を紹介するパンフレットを作ることを確認する。
2	パンフレットの実物を持ち寄り、目的や相手により、どのような表現の仕方があるのかを考えることができる。	<p>各自持ち寄った観光パンフレットの目的および対象としている相手と交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">パンフレットの目的や相手によって、どのような言葉の表現をしているのか考えてみよう。</div> <p>目的や相手に応じて、どんな言葉の表現をしているのか考え、交流する。「キャッチコピー」の意義を知り、それを作っていく次時からの見通しをもつ。</p>	ウー 様々なパンフレットから、目的や意図に応じた表現の仕方とキャッチコピーの意義に気付いている。	観察・発言 パンフレットの中のキャッチコピーに込められた思いや願いが理解できたかどうか、観察や発言から評価する。	自分の住む地域以外の観光パンフレットを用意しておく。 第1時で使ったパンフレットを参考にさせる。紹介文のみを取り出し、どの部分かキャッチコピーになっているか確認する。
3	パンフレットにする事柄を決定し、図書館やパソコンを利用して取材することができる。	<p>自分がつくる観光パンフレットの目的と相手を確認し、観光資料・HP等をもとに、キャッチコピーづくりのための取材を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">パンフレットの目的・相手を意識しながら、南濃温泉周辺の観光スポットを紹介するキャッチコピーを作るための取材を進めよう。</div>	ウー 図書館等の利用、聞き取り調査をしながら紹介する内容、その場所についての自分の思いや願いをまとめている。	観察 パンフレットの目的・相手を明らかにした上で取材しているか観察する。学習プリント	パンフレットの目的・相手を確認し、紹介する場所ごとのグループで取材内容を確認する。一般的なパンフレットが取り上げない独自の紹介場所を考えさせる。

		各自担当場所を決め、紹介する場所ごとに取材する内容を検討し、分担する。 取材内容をメモにまとめていく。		紹介したい場所について自分の思いや願いがまとめられたかを評価する。	
4	パンフレットの形態や特徴を踏まえながら構成を考え、伝えたい内容を端的に表した短文作りを行うことができる。	取材をもとに紹介する場所を説明する短文を交流し、それをもとにしたパンフレット作りの見直しを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">パンフレットの形態や特徴をふまえながら構成を工夫し、伝えたい内容を端的に表した短文作りを進めよう。</div> 伝えたい内容を確認した上で、キャッチコピーを中心にした構成を工夫する。 ・それぞれの紹介場所を各自 A4 1枚にまとめる。 パンフレットを手にとった人に、自分の伝えたい内容が効果的に伝わるような短文（紹介文）作りをする。	ウー 紹介する場所について自分の伝えたい内容を端的に表す短文を書いている。 オー パンフレットの形態や特徴を知り、相手・目的に応じた構成を工夫しながらパンフレット作りを行っている。	学習プリント 紹介する場所への自分の思いや願いを踏まえた上で紹介文が書かれているかを評価する。 学習プリント キャッチコピーを中心にした構成になっているかを評価する。	それぞれのキャッチコピーを一覧にまとめておく。 言語活動としてのパンフレット作りということを確認し、枠組みをある程度限定する。（実態に応じて下書きのためのワークシートを用意する。）
5 (本時)	取材した内容をもとに、自分が伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し、推敲を重ねることを通して、パンフレットを手にとった人に対し効果的なキャッチコピーを書くことができる。	場所を紹介する短文を交流し、キャッチコピーを作っていく手順を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">パンフレットの内容をもとに、紹介する場所の特色を一言で表し、相手に印象づけるようなキャッチコピーを作ろう。</div> 各自、取材したことをもとに担当場所を紹介するキャッチコピー作りを行う。 紹介する場所ごとに分かれ、作ったキャッチコピーについて、以下の観点から交流する。 ・コピーを見ただけで地域の特色が感じられるものになっているか。 ・言葉遊びの要素を入れた、覚えやすく親しみがもてるものであるか。 全体の場で班での交流の様子を交流し、加筆修正を行う。	ウー 伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し、パンフレットを手にとった人のことを意識しながらキャッチコピーを作っている。 オー 相手・目的を意	観察 伝えたい場所の特色を効果的に伝えるために、言語操作をしながらキャッチコピーが作れているか観察する。 学習プリント	一人一人に辞書を持たせる等、言葉へのこだわりがもてる環境を整える。 キャッチコピーを見ただけでその場所の特徴がよく分かるパンフレット例を紹介する。 事前に行った紹介文を読ませ、個々の思いや願いを確認する。 紹介文から抜き出した言葉を組み合

			識し、紹介する場所をより効果的に伝えるための言葉を選んでキャッチコピーを作っている。	相手・目的に応じた効果的な言葉選びがなされているか評価する。	わせて考える欄を設けたプリントを用意する。 メモやつぶやきの中で、言葉の入れ替え等、具体的な言語操作を行っている姿を認め価値付ける。
6	<p>お互いのパンフレットを班内で交流し、相手に伝わる表現になっているか検討しながら、実際に使う場面での自分の表現に役立てようとする事ができる。</p>	<p>各自製作中のパンフレットを班内で見合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お互いのパンフレットを班内で交流し、相手に伝わる表現になっているかを検討し、それを自分の表現に生かしていこう。</p> </div> <p>相手意識・目的意識という視点からお互いのパンフレットの内容を交流する。 交流で明らかになった内容を踏まえて、パンフレットを完成させる。</p>	<p>ウー お互いのパンフレットを交流したり、実際の場面で活用することを踏まえて、相手に伝わる表現になっているか検討している。 アー 仲間同士表現したものを交流し、それぞれのよさを自分の表現に生かそうとしている。</p>	<p>観察 仲間の受け止め方を参考にし、自分の表現を吟味しているか観察する。</p> <p>観察 仲間のどのような表現を自分の表現に生かそうとしているか観察する。</p>	<p>評価表をもとにそれぞれのよさを認め価値付ける。 後日、パンフレットを読んだ人へのアンケート結果をもとに、自分の表現が相手にどれくらい伝わったのかを把握するように働きかける。</p>

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- 取材した内容をもとに自分が伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し、推敲を重ねることを通して、パンフレットを手にとった人に対し効果的に伝わるキャッチコピーを書くことができる。

(2) 本時の位置

5 / 6時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	形態	評価について	指導・援助
導入	<p>場所を紹介する短文を交流し、キャッチコピーを作っていく手順を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>パンフレットの内容をもとに、紹介する場所の特色を一言で表し、相手に印象づけるようなキャッチコピーを作ろう。</p> </div>	学級全体		一人一人に辞書を持たせる等、言葉へのこだわりがもてる環境を整える。
展開	<p>各自、取材したことをもとに担当場所を紹介するキャッチコピー作りを行う。 <キャッチコピー作りの手順> 紹介する相手およびその目的を確認し、どんなことを伝えたいのか簡単な文章にまとめる。 取材メモの中から、地域の特色を感じさせる言葉を考える。 相手に、より印象的・効果的な言葉</p>	個人	<p>ウー 伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し、パンフレットを手にとった人のことを意識しながらキャッチコピーを作っている。</p>	<p>キャッチコピーを見ただけでその場所の特徴がよく分かるパンフレット例を紹介する。 事前に書いた紹介文を読ませ、個々の思いや願いを確認する。</p>

	<p>を選び、言葉の入れかえ・省略等の言語操作を行いながら、臨場感のあるキャッチコピーを作る。</p> <p>伝えたい内容を読み返し、体言止め・倒置法・比喻・押韻・方言の意図的使用等の手法も参考にしながら、声に出しての推敲を行う。</p> <p>伝えたい内容を書いた文章をもとに、コピーを再度読み直す。</p> <p>紹介する場所ごとに分かれ、作ったキャッチコピーについて、以下の観点から交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コピーを見ただけで地域の特色が感じられるものになっているか（パンフレットを手にとってみたくなるか）。 ・言葉遊びの要素を取り入れた、覚えやすく親しみのもてる文になっているか。 <p>全体の場で、班での話し合いの様子を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手・目的・伝えたい内容を話した上で、作ったキャッチコピーを発表する。 ・班での交流を受けて、どのように加筆修正を行っていきたいかを発表する。 <p>班交流・全体交流を受けて自分のキャッチコピーを見直し、加筆修正を行う。</p> <p>次時の見通しを確認する。</p>	<p>小 集 団(課 題別)</p> <p>学級 全体</p> <p>個人</p> <p>学級 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 伝えたい場所の特色を効果的に伝えるために、言語操作をしながらキャッチコピーが作れているか観察する。 オー 相手・目的を意識し、介する場所をより効果的に伝えるための言葉を選んでキャッチコピーを作っている。 ・学習プリント 相手・目的に応じた効果的な言葉選びがなされているか評価する。 	<p>紹介文から抜き出した言葉を組み合わせる欄を設けたプリントを用意する。</p> <p>メモやつぶやきの中で、言葉の入れ替え等、具体的な言語操作を行っている姿を認め価値付ける。</p>
終末				

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

ウー
伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し、パンフレットを手に取った人のことを意識しながらキャッチコピーを作っている。

オー
相手・目的を意識し、紹介する場所をより効果的に伝えるための言葉を選んでキャッチコピーを作っている。

(2) 評価の実際

【評価方法】観察・学習プリント

【判断した生徒の状況例】

- ・「伝えたい場所の特色を表す言葉を抜き出し」については、紹介する文章の中から読み手の印象に残るような言葉をいくつか書き出している姿を、「おおむね満足できる状況」と判断した。
- ・「紹介する場所をより効果的に伝えるための言葉を選んでキャッチコピーを作っている。」については、選び出した言葉を並べ替えたり短くしたりする操作ができない生徒を「努力を要する状況」とあると判断した。この要因としては、
 - 「交流の前に自分なりの考えをまとめきれなかった」
 - 「抜き出した言葉をどのように言語操作することが、効果的なキャッチコピーにつながるのかが分からなかった」ことが考えられる。

(3) 個に応じた指導の実際

- ・「交流の前に自分なりの考えをまとめきれなかった」が要因と考えられる生徒に対しては、机間指導の中で、事前に書いた自分の紹介文を読ませ、自分の伝えたい思いや願いを確認するよう助言した。生徒は、伝える相手や目的をふまえ、キャッチコピーづくりに取り掛かることができた。
- ・「抜き出した言葉をどのように言語操作することが、効果的なキャッチコピーにつながるのかが分からなかった」ことが要因と考えられる生徒に対しては、紹介文から抜き出した言葉を組み合わせて考える欄を入れた学習プリントを用意し、全体の場で交流した表現技法の効果を再確認し、それを使っていくよう助言した。生徒は、プリント上で様々な言語操作を行い、交流の場でもそのメモをもとに発言できるようになった。